



仏殿に祀られたご本尊、聖観世音菩薩。山門と並んで唯一焼失を免れた貴重な仏像



仏殿の左右に祀られた十六羅漢像(左側)。寺の再建にあたり持宝院より勧請されたと伝えられる



仏殿 ●文化5年(1808年)の再建時、時の藩主大洲藩二代、加藤泰興公より賜った楠の銘木を材とした立派な造り

勸学寮 ●かつては雲水僧の修行道場兼宿泊所であった。改築された現在は寺の行事に利用されている



鐘楼 ●昭和33年(1958年)、四十世・高嶋玄岫和尚の代に、檀信徒からの浄財によって奉納された



僧堂 ●修行僧が日夜坐禅に励む道場



仏殿内は前卓(まえじょく)・梁・天井・廊下・欄間・襖に至るまで、無節の楠が用いられている



開山堂 ●開山を中心に歴代住職の位牌が祀られている建物は昭和50年(1975年)、不燃構造で再建された



扁額 ●大洲藩二代、加藤泰興公の揮毫(きごう)による額。大雄殿とは仏殿の意(町、有形文化財指定)

現在の境内は、唯一焼失を免れた山門をはじめ、立派な七堂伽藍を有する。山門と本堂の間に配された中雀門は、さる武家屋敷から移築されたものと伝えられ、その左右に建つ庫裏と僧堂を結ぶ回遊式の造りが本山、永平寺を模したことから「伊予のミニ永平寺」とも呼ばれている。
また、文化五年(一八〇八年)に再建された本堂は、時の藩主大洲藩二代、加藤泰興公より賜った楠の銘木を材としており、前卓・梁・天井・廊下・欄間・襖に至るまで、無節の材で仕上げられている。その見事さゆえに、「別名「楠寺」と称される。
本堂に祀られたご本尊、聖観世音菩薩像は、山門と並んで唯一焼失を免れた貴重な仏像であり、現在も当時と変わらぬ慈悲深い表情をたたえている。

立派な七堂伽藍と 本山、永平寺を模した廻廊

中国敦煌、莫高窟のねはん仏を模したとされるこの石像は、長さ十メートル、重さ二百トンにも及ぶ。覆殿の中で安らかなお顔で休まれるそのお姿は、「ねはん祭り」の日に限らずいつでも参拝でき、触れることができる。ぜひ一度、訪れてみてはいかがだろうか。

別名「内子のねはんさん」としても親しまれる高昌寺では、お釈迦さまへの感謝や報恩の心に触れていただきたいの思いから、平成十年(一九九八年)石造ねはん仏が祀られた。
現住職、四十一世・高嶋武彦老師によって建立されたこのねはん仏は、構想から完成まで実に十年もの歳月を費やし、当初は不可能とも思われた巨額の資金も、檀信徒はじめ内外の有縁の方々の方々の尽力によって賄うことができた。

高昌寺のもう一つの宝物は、日本最大の石造ねはん仏である。
その起りとなった「ねはん祭り」は、約二百五十年前に十八世・慈舟台漸和尚によって創始された法要だが、今では内子の春祭りとして毎年三月十五日に執り行われる。町を挙げての祭りには、稚児行列や餅まき、清興などが催され、地元での楽しみな恒例行事となっている。

十年がかりで実現となった 日本最大の石造ねはん仏



3月15日の「ねはん祭り」で一般公開されるねはん絵(町、有形文化財指定)



現、四十一世・高嶋住職によって建立された石造ねはん仏。安らかなお顔で休まれる姿に心癒される